

6. 地域別人口

— 人口の「北高南低」傾向さらに顕著に —

地域別人口をみると、北勢地域が753,698人、中南勢地域が501,908人、南勢志摩地域が270,851人、伊賀地域が166,685人、東紀州地域が99,372人で、三重県人口に占める割合は、北勢地域42.0%、中南勢地域28.0%、南勢志摩地域15.1%、伊賀地域9.3%、東紀州地域5.6%となっている。

昭和60年国勢調査時と比較すると、伊賀地域で8.7%と大きく増加しているほか、2地域で増加しているが、南勢志摩地域が今回初めて1.4%の減少を示したほか、東紀州地域が前回の3.3%を大きく上回る5.7%の減少を示しており、人口の「北高南低」傾向がさらに顕著になった。(表6、表7)

表6 地域別人口

地 域	市	町	村	人 口
北 勢	四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、桑名郡、員弁郡、三重郡、鈴鹿郡			753,698
中 南 勢	津市、松阪市、久居市、安芸郡、一志郡、飯南郡、多気郡、大宮町、紀勢町、大内山村			501,908
南勢志摩	伊勢市、鳥羽市、大宮町・紀勢町・大内山村を除く度会郡、志摩郡			270,851
伊 賀	上野市、名張市、阿山郡、名賀郡			166,685
東 紀 州	尾鷲市、熊野市、北牟婁郡、南牟婁郡			99,372

表7 地域別人口の推移(昭和60年・平成2年)

地 域	平成2年	県人口に占める割合(%)	昭和60年	昭和60年～平成2年増減	
	国勢調査人口(人)		国勢調査人口(人)	増減数(人)	増減率(%)
北 勢	753,698	42.0	718,327	35,371	4.9
中 南 勢	501,908	28.0	495,373	6,535	1.3
南勢志摩	270,851	15.1	274,863	- 4,012	- 1.5
伊 賀	166,685	9.3	153,320	13,365	8.7
東 紀 州	99,372	5.6	105,428	- 6,056	- 5.7

7. 市町村別人口

(1) 人 口

— 四日市市の人口 274,180 人 —

三重県の人口を市町村別にみると、県下69市町村(13市47町9村)のうち、四日市市が274,180人と最も多く、次いで鈴鹿市174,105人、津市157,177人、松阪市118,725人、伊勢市104,164人と続いており、この5市が10万人を超えている。この順位は昭和60年と全く同じである。

また、町村では、菰野町が32,263人と最も多く、次いで東員町25,447人、明和町21,484人の順となっている。(表8)

(2) 人口密度

— 桑名市の人口密度 1,709 人 —

人口密度を市町村別にみると、桑名市が1km当たり1,709人と最も多く、以下鶴殿村1,613人、津市1,543人、小俣町1,477人と続き、11市町村で1,000人を超えている。(表9)

(3) 市町村別人口の推移

— 33市町村で人口増加 —

市町村別に昭和60年～平成2年の人口増減をみると、69市町村のうち33市町村(8市21町4村)で増加し、残りの36市町村(5市26町5村)で減少している。(表10)

表8 人口順位表

(人)

順位	市町村	人口	順位	市町村	人口	順位	市町村	人口
1	四日市市	274,180	24	大安町	14,095	47	阿山町	8,459
2	鈴鹿市	174,105	25	北勢町	13,659	48	員弁町	8,284
3	津市	157,177	26	一志町	13,136	49	紀宝町	8,275
4	松阪市	118,725	27	紀伊長島町	12,356	50	御園村	8,171
5	伊勢市	104,164	28	玉城町	12,348	51	藤原町	7,844
6	桑名市	97,909	29	南勢町	11,575	52	大台町	7,770
7	名張市	68,933	30	多度町	11,403	53	関町	7,413
8	上野市	60,242	31	海山町	11,307	54	木曾岬町	7,167
9	久居市	59,682	32	楠町	10,835	55	飯南町	6,891
10	亀山市	37,632	33	伊賀町	10,256	56	浜島町	6,877
11	菟野町	32,263	34	安濃町	10,228	57	朝日町	6,744
12	鳥羽市	27,320	35	多気町	10,106	58	飯高町	6,457
13	尾鷲市	27,114	36	青山町	10,033	59	大宮町	5,804
14	東員町	25,447	37	川越町	9,988	60	大山田村	5,750
15	熊野市	23,718	38	三雲町	9,941	61	勢和村	5,585
16	明和町	21,484	39	御浜町	9,893	62	香良洲町	5,563
17	阿児町	20,851	40	大王町	9,653	63	紀勢町	5,055
18	嬉野町	17,611	41	磯部町	9,631	64	鶴殿村	4,644
19	小俣町	17,074	42	南島町	9,358	65	美里村	4,521
20	河芸町	16,961	43	度会町	9,075	66	宮川村	4,374
21	志摩町	15,865	44	芸濃町	9,028	67	島ヶ原村	3,012
22	白山町	15,253	45	二見町	8,889	68	紀和町	2,065
23	長島町	14,730	46	美杉村	8,835	69	大内山村	1,721

表9 人口密度 1,000人以上の市町村

順位	市町村名	人口密度 (人/km ²)	順位	市町村名	人口密度 (人/km ²)
1	桑名市	1,709	7	四日市市	1,390
2	鶴殿村	1,613	8	御園村	1,351
3	津市	1,543	9	川越町	1,147
4	小俣町	1,477	10	朝日町	1,126
5	香良洲町	1,426	11	東員町	1,123
6	楠町	1,396			

表10 人口増減率別市町村数 (昭和45年~平成2年)

人口増減率	昭和45年 ~50年	昭和50年 ~55年	昭和55年 ~60年	昭和60年 ~平成2年
総数	69	69	69	69
人口増加市町村	43	40	42	33
増加率 20.0%以上	1	3	3	2
10.0%~19.9%	10	6	3	2
5.0%~9.9%	12	8	12	6
0.0%~4.9%	20	23	24	23
人口減少市町村	26	29	27	36
減少率 0.0%~4.9%	18	23	20	25
5.0%~9.9%	7	5	6	9
10.0%~19.9%	1	0	1	2
20.0%以上	0	1	0	0

— 東員町の増加率 34.3% —

人口増加率の高い市町村をみると、東員町の34.3%を最高に、以下名張市22.1%、青山町15.8%、木曾岬町13.6%と続いており、この4市町が10%を超えている。

一方、減少率の高い市町村をみると、紀和町の12.2%を最高に、以下紀勢町10.2%、宮川村 9.8%、尾鷲市 8.8%と続いている。

なお、今回、飯高町が人口減少率の高い市町村の上位5位に入っているが、これは同町の蓮ダムの工事関係者が、この5年間にまとまって転出したことが、大きく影響している。(表11-1、表11-2)

表11-1 人口増加率の高い市町村

順位	市町村名	増加率 (%)
1	東員町	34.3
2	名張市	22.1
3	青山町	15.8
4	木曾岬町	13.6
5	長島町	7.2

表11-2 人口減少率の高い市町村

順位	市町村名	減少率 (%)
1	紀和町	12.2
2	紀勢町	10.2
3	宮川村	9.8
4	尾鷲市	8.8
5	飯高町	8.6
5	大内山村	8.6

昭和55年～60年の人口増加率と比べると、引き続き増加している市町村数は、30市町村(8市19町3村)であるが、増加率が上昇したのは6市町(2市4町)で、変わらなかったのは3市町(2市1町)、低下したのは21市町村(4市14町3村)であった。また、人口が減少から増加へ転じたのが3町村(2町1村)、増加から減少へ転じたのが12町村(10町2村)であった。

さらに、人口が引き続き減少している市町村数は24市町村(5市16町3村)で、このうち、減少率が上昇したのが23市町村(5市16町2村)、低下したのが1村であった。(表12)

表12 市町村別人口増減率類型

引き続き増加		増加から減少へ		引き続き減少		
増加率上昇	同率	増加率低下	減少から増加へ	増加から減少へ	減少率低下	減少率上昇
津市 四日市市 東員町 一志町 伊賀町 青山町	鈴鹿市 亀山市 菟野町	松阪市、桑名市、 名張市、久居市、 多度町、長島町、 木曾岬町、大安町、 関町、美里村、 安濃町、嬉野町、 三雲町、明和町、 玉城町、小俣町、 御園村、度会町、 阿山町、阿児町、 鶴殿村	楠町 河芸町 大山田村	北勢町 員弁町 朝日町 白山町 多気町 大台町 勢和村 二見町 島ヶ原村 大王町 志摩町 紀宝町	大内山村	伊勢市、上野市、 尾鷲市、鳥羽市、 熊野市、藤原町、 川越町、芸濃町、 香良洲町、美杉村、 飯南町、飯高町、 宮川村、南勢町、 南島町、大宮町、 紀勢町、浜島町、 磯部町、紀伊長島町、 海山町、御浜町、 紀和町
2市4町	2市1町	4市14町3村	2町1村	10町2村	1村	5市16町2村

(4) 男女別人口

— 白山町の性比 106.0 —

市町村別人口を男女別にみると、性比が100を超えている、すなわち女子より男子が多い市町村は、白山町(106.0)、鈴鹿市(102.6)、大安町(100.8)の3市町である。これらの市町で女子より男子が多いのは、白山町には男子生徒が圧倒的に多い全寮制高等学校が、鈴鹿市及び大安町には、男子単身者が多数就業している企業が立地しているためである。

一方、性比の低い市町村は、紀和町(80.3)、大王町(85.3)、志摩町(86.6)、海山町(86.6)などとなっている。(表13)

表13 性比の高い市町村、低い市町村

性比の高い市町村			性比の低い市町村		
順位	市町村名	性比	順位	市町村名	性比
1	白山町	106.0	1	紀和町	80.3
2	鈴鹿市	102.6	2	大王町	85.3
3	大安町	100.8	3	志摩町	86.6
4	木曾岬町	99.0	4	海山町	86.6
5	龜山市	97.9	5	大内山村	86.9

8. 世帯

— 三重県の総世帯数は 546,117世帯 —

三重県の総世帯数は、546,117世帯で、昭和60年国勢調査時と比較すると、38,032世帯、率にして7.5%の増加であった。
 また、世帯の種類別にみると、一般世帯は544,844世帯、施設等の世帯は848世帯、(世帯の種類「不詳」は424世帯)となっており、昭和60年国勢調査時と比較すると、一般世帯は37,756世帯(7.4%)の増加、施設等の世帯は72世帯(7.8%)の減少となっている。(表14)

表14 世帯の種類別世帯数の推移

世帯の種類	世帯数		世帯数増減	
	平成2年	昭和60年	実数	率(%)
総世帯数	546,117	508,085	38,032	7.5
一般世帯数	544,844	507,088	37,756	7.4
施設等の世帯数	848	920	-72	-7.8

— 四日市市の世帯数 86,103世帯 —

三重県の世帯数を市町村別にみると、最も多いのは四日市市の86,103世帯、次いで、津市の53,942世帯、鈴鹿市の53,744世帯、松阪市の36,846世帯、伊勢市の32,571世帯となっており、以上の5市が30,000世帯を超えている。

一方、最も少ないのは大内山村の617世帯、次いで、島ヶ原村の781世帯、紀和町の1,002世帯、美里村の1,171世帯、勢和村の1,436世帯となっている。(表15)

— 1世帯当たり人員は 3.25人 —

三重県の1世帯当たり人員(一般世帯人員を一般世帯数で除した数値)は3.25人であった。昭和60年国勢調査時は3.40人であったので、この5年間に世帯の規模が縮小したことになる。

また、市町村別にみると、最も多いのは度会町の4.29人、次いで、多気町の4.08人、員弁町の4.05人、阿山町の4.04人、木曾岬町の4.02人となっており、以上の5町が4人を超えている。

一方、最も少ないのは紀和町の2.07人、次いで、熊野市の2.51人、御浜町の2.56人、尾鷲市の2.59人、紀宝町の2.73人となっている。(表16)

表15 市町村別世帯数

多い市町村			少ない市町村		
順位	市町村名	世帯数	順位	市町村名	世帯数
1	四日市市	86,103	1	大内山村	617
2	津市	53,942	2	島ヶ原村	781
3	鈴鹿市	53,744	3	紀和町	1,002
4	松阪市	36,846	4	美里村	1,171
5	伊勢市	32,571	5	勢和村	1,436

表16 市町村別1世帯当たり人員

多い市町村			少ない市町村		
順位	市町村名	1世帯当たり人員	順位	市町村名	1世帯当たり人員
1	度会町	4.29人	1	紀和町	2.07人
2	多気町	4.08	2	熊野市	2.51
3	員弁町	4.05	3	御浜町	2.56
4	阿山町	4.04	3	尾鷲市	2.59
5	木曾岬町	4.02	5	紀宝町	2.73

— 東員町 38.5%の増加率 —

総世帯数の昭和60年～平成2年の増減を市町村別にみると、54市町村(11市36町7村)で増加し、残る15市町村(2市11町2村)で減少している。

増加数についてみると、四日市市が8,147世帯と最も多く、以下、津市5,385世帯、鈴鹿市4,885世帯と続いており、一方、減少数については、尾鷲市の336世帯を最高に、以下、熊野市190世帯、飯高町180世帯と続いている。(表17)

また、増加率についてみると、東員町の38.5%を最高に、以下、名張市の27.6%、青山町の18.4%と続いており、一方、減少率については、飯高町の8.5%を最高に、以下、紀和町6.2%、宮川村4.4%となっている。(表18)

表17 世帯数の増加数・減少数

増 加			減 少		
順位	市町村名	増加数	順位	市町村名	減少数
1	四日市市	8,147	1	尾鷲市	336
2	津市	5,385	2	熊野市	190
3	鈴鹿市	4,885	3	飯高町	180
4	名張市	4,218	4	宮川村	68
5	桑名市	2,291	5	美杉村	67

表18 世帯数の増加率・減少率

増 加			減 少		
順位	市町村名	増加率	順位	市町村名	減少率
1	東員町	38.5%	1	飯高町	8.5%
2	名張市	27.6	2	紀和町	6.2
3	青山町	18.4	3	宮川村	4.4
4	木曾岬町	17.3	4	尾鷲市	3.1
5	大安町	15.8	5	美杉村	2.3

9. 外国人

— 三重県に住む外国人は 10,179 人 —

平成2年国勢調査による三重県の外国人は10,179人であった。これを昭和60年国勢調査時(8,222人)と比較すると、1,957人、率にして23.8%の増加となっている。

また、国籍別にみると、「韓国・朝鮮」が7,284人と最も多く、以下、「東南アジア・南アジア」780人、「中国」448人と続いている。これを昭和60年国勢調査時と比較すると、「韓国・朝鮮」が2.8%の減少であるが、他はすべて増加しており、この5年間に国際化が進んだことを示している。

なお、外国人を男女別にみると、男5,128人、女5,051人であり、昭和60年国勢調査時(男4,121人、女4,101人)と比較すると、男は1,007人(24.4%)、女は950人(23.2%)の増加となっている。(表19)

表19 国籍別外国人の推移

国 籍	外国人 数(人)		増 減 実数(人)	率(%)
	平成2年	昭和60年		
総 数	10,179	8,222	1,957	23.8
韓 国 ・ 朝 鮮	7,284	7,497	-213	-2.8
中 国	448	286	162	56.6
ア メ リ カ	183	99	84	84.8
※1 東南アジア・南アジア	780	—	—	—
※2 そ の 他	1,484	340	1,144	336.5

※1 平成2年国勢調査のみ表章されている。

※2 国名「不詳」を含む。

10. 人口集中地区

— 三重県の人口集中地区の人口は 702,258人 —

平成2年国勢調査における人口集中地区(DIDs)及び昭和60年国勢調査時との比較は、表20に示すとおりである。

平成2年国勢調査における人口集中地区の人口は、702,258人(県人口の39.2%)で、昭和60年国勢調査時(663,936人)と比較すると、38,322人、率にして5.8%の増加となっている。

また、市・郡別にみると、市部652,213人、郡部50,045人となっている。(表21)

表20 人口集中地区（平成2年・昭和60年）

市町村名及び地区名		市町村名及び地区名		市町村名及び地区名	
平成2年	昭和60年	平成2年	昭和60年	平成2年	昭和60年
津市 I	津市 I	上野市	上野市	久居市	久居市
" II	" II	鈴鹿市 I	鈴鹿市 I	東員町	東員町
四日市市 I	四日市市 I	" II	" II、III	菰野町	菰野町
" II	" II	" III	" IV	楠町	楠町
" III	" III	名張市 I	名張市 I	川越町	川越町
" IV	" IV	" II	" II	小俣町	小俣町
" V	" V	" III	" III	——	志摩町
伊勢市	伊勢市	尾鷲市	尾鷲市	紀伊長島町	紀伊長島町
松阪市	松阪市	龜山市	龜山市	——	海山町
桑名市 I	桑名市 I	鳥羽市	鳥羽市		
" II	" II	熊野市	熊野市		

表21 人口集中地区の人口の推移

区分	人口(人)		人口増減	
	平成2年	昭和60年	実数(人)	率(%)
三重県	702,258	663,936	38,322	5.8
市部	652,213	609,828	42,385	7.0
郡部	50,045	54,108	- 4,063	- 7.5

—— 三重県の人口集中地区の総世帯数は 236,375世帯 ——

平成2年国勢調査における人口集中地区の総世帯数（世帯の種類「不詳」は含まない。以下同じ）は、236,375世帯（県総世帯数の43.3%）で、昭和60年国勢調査時（212,303世帯）と比較すると、24,072世帯、率にして11.3%の増加となっている。

また、市・郡別にみると、市部 221,262世帯、郡部15,113世帯となっている。（表22）

表22 人口集中地区の総世帯数の推移

区分	総世帯数(人)		総世帯数増減	
	平成2年	昭和60年	実数(人)	率(%)
三重県	236,375	212,303	24,072	11.3
市部	221,262	196,399	24,863	12.7
郡部	15,113	15,904	- 791	- 5.0

さらに、世帯の種類別にみると、一般世帯 236,104世帯、施設等の世帯 271世帯で、昭和60年国勢調査時と比較すると、一般世帯は24,904世帯（11.4%）の増加を示しているが、施設等の世帯は22世帯（7.5%）の減少となっている。（表23）

なお、1世帯当たり人員は、三重県で2.94人、市部2.92人、郡部3.31人となっている。

表22 世帯の種類別世帯数の推移

世帯の種類	世帯数(人)		世帯数増減	
	平成2年	昭和60年	実数(人)	率(%)
一般世帯	236,104	212,010	24,094	11.4
施設等の世帯	271	293	- 22	- 7.5

—人口集中地区の外国人人口は 6,295人 —

平成2年国勢調査における人口集中地区の外国人数は 6,295人（県の外国人数の61.8%）で、これを国籍別にみると、「韓国・朝鮮」が 4,627人と最も多く、以下、「東南アジア・南アジア」 465人、「中国」 286人、「アメリカ」 122人と続いている。また、男女別にみると、男 3,067人、女 3,228人で、さらに市・郡別にみると、市部 5,874人、郡部 421人となっている。

(表24)

表24 人口集中地区の外国人人口

国 籍	男女別外国人数 (人)		市・郡部別外国人数 (人)	
	男	女	市 部	郡 部
総 数	3,067	3,228	5,874	421
韓 国 ・ 朝 鮮	2,307	2,320	4,287	340
中 国	116	170	281	5
ア メ リ カ	78	44	120	2
東南アジア・南アジア	148	317	459	6
※ そ の 他	418	377	727	68

※ 国名「不詳」を含む。